

二戸市浄法寺町の浄法寺まつり（実行委主催）は14日開幕し、山車やみこしの運行、郷土芸能などで町中心部がにぎわった。

中心会場の同市役所浄法寺総合支所前では、福岡高浄法寺校（高橋隆校長、生徒19人）が浄法寺太鼓から「祭太鼓」「獅子の舞」など4曲を披露。力強い音に大きな拍手が湧き、同町長流部の田口トシさん（74）は

迫力太鼓 心込め

二戸市 浄法寺まつり開幕

「本当に上手で涙が出そう。手を痛めている子もいて、相当練習したと思う」と目を細めた。

リーダーの大森直人君（3年）は「去年は雨で残念だったけれど、初めて屋外でたいて快感だった。お客さんの顔もみんな笑顔で、気持ち伝わったと思う」と笑みを広げた。最終日の15日は町内3組による山車運行のほか、歌謡ショーなども行われる。



力強い浄法寺太鼓を披露した福岡高浄法寺校の生徒たち

雪かき通じ 戸市
地元に貢献 二
福岡高浄法寺校

二戸市浄法寺町の福岡高浄法寺校（高橋隆校長、生徒24人）の生徒有志10人は18日、高齢者宅の雪かきボランティアを行った。

10人は2班に分かれ地域の一人暮らしの高齢者宅3軒を訪問。スコップを使って30センチほど積もった雪をかき出し、住宅から沿道までの通路を確保した。

海上地区の姉帯トシ子さん（80）は支援に対し「雪で外へ出るのが大変だった。寒い中活動してもらって本当にありがたい」と目を細めた。

参加した下館晶君（2年）は「玄関から道まで距離がある家もあり、高齢者1人では大変だと思う。力になってうれしい」と充実の表情。駒ヶ嶺真莉絵

高齢者宅の雪かきボランティアをする福岡高浄法寺校の生徒ら

さん（同）は「地域の役に立てることをどんなやりたい」と意欲を見せた。

同校は2015年度末での福岡高への統合が決定しているが、昨年9月も台風18号で被害を受けた民家の泥出しを行うなど、地域の力として存在感を高めている。市社会福祉協議会の山口金男会長は「親しみのある地元の高校生への応援を心強いと話す方が多い」と感謝する。

岩手日報 平成26年1月19日 掲載

地域のゴミ拾い

県立福岡高校浄法寺校周辺を通ると、男女数名がゴミ拾いを行っていました。車を止め話を聞いてみると、「通学路清掃」として生徒と先生が高校周辺のゴミ拾いを行っているとの事でした。

今年度で廃校が決まっている浄法寺校ですが、生徒達は地域を大切に活動しています。廃校になっても、学校で学んだ沢山の思いは今後の人生に繋がっていく事と思います。残りわずかな学校生活を精一杯楽しんで送ってほしいと思います。




二戸市社会福祉協議会浄法寺支所広報「ふれあい」
平成27年7月1日発行第47号 掲載

漆に込める古里愛

閉校控え作品を披露

本年度で閉校する二戸市の福岡高浄法寺校(自時一哉校長、生徒9人)は、7日から同市の市浄法寺総合支所などで開かれる「うるしまつり」(市主催)に生徒自作の漆器を出品する。同校は現在、3年生だけで、全員が地元出身。閉校を前に、日本一の漆産地で成長した9人が作品を披露し、古里への思いを伝える。

二戸市・福岡高浄法寺校



職人に教わりながら漆塗りを体験する生徒

きょうから催しで展示



うるしまつりをPRする福岡高浄法寺校の3年生9人

展示するのは、わんやサラタボウルなど17点。9人が入学時から1年に1点ずつ仕上げた作品の中から紹介する。漆にかぶれることもあったが、仲間が漆を手伝うなど協力して制作してきた。

生徒は漆器作りのほか、植樹などを通して漆を伝えられたらと願った。生まれも育ちも浄法寺の生徒たちにとって、漆は身近で当たり前のもの。地域の産業に「産地の高校生」として関わることで、見守られ育てられてきた地域への感謝を伝える。荒木瑞穂さんは「展示を通して、地元の高校が頑張っていることを伝えられたら」と願い、平山和生君は「これから浄法寺漆がもっと有名になって、街に活気をもたらしてくれたらうれしい」と思いを込める。

まつりは15日まで。生徒の作品展示のほか、浄法寺漆振興に尽力した漆芸家・故中西正さんが収集した人間国宝の作品など約200点も公開。14、15日は漆器の木地や漆樽用輪っか作り体験(一部有料)も行う。手作り体験の申し込み、問い合わせは同支所うるしまつり室0195・38・2211へ。

記 録



岩手県立福岡高等学校浄法寺校 閉校式典



お世話になった浄法寺校



最後の卒業式



岩手県立福岡高等学校浄法寺校閉校式典は、卒業式に引き続き、平成二十八年三月五日午後二時より、同校体育館で挙行された。卒業生、在任した旧職員など二百名以上が参列した。目時一哉校長による式辞、八重樫勝岩手県教育委員会委員長による告辞、閉校事業実行委員会会長である三浦利章同窓会長の挨拶に続き、歴代校長・振興会長・同窓会長・PTA会長・学校医・学校薬剤師・教育活動功労者へ感謝状が贈呈された。引き続き藤原淳二戸市長・平賀信二岩手県高等学校長協会会長による来賓挨拶と続き、生徒代表の荒木瑞穂さんが、「私は、四階の図書室の窓から見下ろす静かな浄法寺の景色が好きでした。かつてこの場所で響いていた先輩方の声が、みなさまの記憶の中から消えないことを願います。私たち九名には、『卒業』の二文字が『私たちの代で浄法寺校の幕を閉じたのだ』というもう一つの重みを持って記憶に残っていくでしょう。」と、浄法寺校への感謝の思いを述べた。最後に校歌を高らかに歌い上げ、閉校式典は幕を閉じた。

午後五時から、会場を浄法寺交流センターJホールに移し、「感謝する会」が開催された。約百八十名が参加し、懐かしい再会のなかい出を語り合った。限られた時間で名残は尽きなかったが、最後は参加者全員で万歳三唱をし、散会となった。